

的	的	分	て			情	利	そ	「	す	「	と	れ	わ	語	「	名	「	回
で	な	が	た			を	な	こ	そ	ね	そ	呼	の	れ	で	の	前	そ	で
横	目	映	ま			察	刃	こ	こ	。	う	ぶ	“	わ	『	」	で	う	言
暴	線	る	る			し	物	こ	こ	。	か	説	間	れ	』	他	す	そ	え
で	の	。	か			胸	に	こ	こ	。	い	も	（	わ	他	。	。	う	。
、	中	他	！			の	も	こ	こ	。	。	あ	ま	。	者	。	。	。	。
思	の	者	」			前	変	こ	こ	。	。	。	。	。	の	。	。	。	。
い	自	か	と			で	わ	こ	こ	。	。	。	。	。	夢	。	。	。	。
や	分	ら	嫉			強	っ	こ	こ	。	。	。	。	。	』	。	。	。	。
り	は	見	妬			く	て	こ	こ	。	。	。	。	。	と	。	。	。	。
に	、	た	に			掌	し	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
欠	ど	本	塗			を	ま	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
け	こ	当	れた			結	う	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
た	ま	の	醜			ん	。	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
人	で	意	い			だ	。	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
物	の	味	表			。	。	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
だ	客	で	情			。	。	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
っ	観	の	の			。	。	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
た	自	意	自			。	。	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
の	心	味	自			。	。	こ	こ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

か	も	細	持	後	さ	か		り	き	の	感	そ	っ	あ		映	涙	い	だ
っ	簡	な	ち	悔	ん	ら	だ	拍	沈	舞	。乗	れ	た	り	た	像	を	を	と
た	単	す	も	が	話	先	か	手	み	台	。乗	に	こ	谷	を	拭	伝	思	
。	に	れ	よ	押	が	の	ら	を	は	や	。乗	対	そ	あ	見	う	え	い	
	理	違	く	し	し	物	こ	送	ド	映	。乗	す	。	り	続	こ	る	知	
	解	い	わ	寄	た	語	そ	り	ラ	画	。乗	る	い	け	の	こ	ら	ら	
	で	。	か	せ	か	も	、	た	マ	よ	。乗	苦	く	て	た	た	さ	れ	
	可	こ	っ	て	っ	見	ど	い	チ	り	。乗	悩	つ	い	。	。	れ	。	
	る	う	た	く	と	て	う	と	ツ	も	。乗	や	も	。			。	。	
	こ	し	。	。	、	こ	し	心	ク	の	。乗	葛	の						
	と	て	誰	画	処	ん	て	か	な	経	。乗	藤	経						
	が	見	も	面	理	な	こ	っ	だ	験	。乗	と	験						
	絶	る	悪	の	で	に	ん	。	な	が	。乗	挫	が						
	望	こ	く	中	き	早	な	思	と	あ	。乗	折	あ						
	的	と	な	の	な	。	に	っ	。	り	。乗	し	り						
	な	で	い	自	い	こ	。	。	。	時	。乗	た	感						
	ほ	こ	。	分	速	れ	。			の	。乗	時	情						
	ど	ん	。	の	度	。				悲	。乗	の	が						
	悲	な	。	気	で	。				壯	。乗	悲	あ						
	し	に	。								。	。	り						

握り締めた花の花弁はもう一枚しかない。	それが恵太の最後の記憶なのだとしたら、それを見ることで自分はどうなってしまったのか	と不安になる。しかし利他は涙をすすりながらゆっくりと花弁を切り離し、滝壺へと静かに落とした。	そこに映し出された映像は、一目見て恵太の最後の瞬間を切り取ったものだとわかる。降りしきる雨の音が聞こえる中で、恵太の最後の言葉を聞いた。	「くそっ・・・こんなところで死んでたまるかよ。おれに・・・は、やらなきゃならない、これが・・・まだまだあるんだよっ！くそっ！くそっ・・・。ごめん・・・な、た・・・か・・・それっつきり恵太の声は続かず、「おいっ！あんた大丈夫か！？」と駆け寄る男の声や様々な人間の声の中、常に見上げるような視点で映像が流れ、徐々に画面は黒くなっていた	全てを見終わった利他はどれくらいの時間	そうしていたのか、焦点を合わさず一点を見
---------------------	---	--	--	---	---------------------	----------------------

と	木	身	で	将	に		い	界	を	よ		見	う	し	く	く	抜		浮
暗	に	体	は	が	そ	そ	た	で	こ	う	少	え	明	な	濁	る	け	来	か
闇	触	に	と	こ	の	れ	も	目	す	う	し	な	かり	ら	っ	声	た	た	べ
の中	れ	入	考	う	糸	て	も	印	り	絶	ず	が	も	そ	て	に	時	、	一
もう	て	れ	え	な	だ	い	違	を	前	え	声	ない	ない	の	い	同	際	大	際
一度	い	た	た	ら	け	な	う	探	後	ず	が	か	か	ま	っ	じ	大	き	な
仰	い	力	が	こ	は	い	糸	し	左	声	鳴	ら	ま	歩	て	よ	な	溜	息
ぎ	な	を	、	と	見	て	が	て	右	が	り	進	を	進	う	に	上	を	見
見	か	抜	そ	を	越	い	映	と	も	映	響	め	め	た	を	見	上	げ	な
て	ら	く	こ	見	し	る	つ	、	わ	つ	く	始	め	が	狙	上	げ	な	が
み	こ	。	に	て	用	。	強	視	か	な	め	め	ら	、	つ	上	げ	な	が
た	確	その	証	意	し	利	く	界	ら	な	心	を	重	、	入	上	げ	な	が
が	が	場	得	て	いた	他	何	の中	な	な	を	く	く	、	り	上	げ	な	が
や	え	に	ら	た	の	は	度	に	な	な	煽	い	い	、	込	上	げ	な	が
は	な	立	れ	の	女	ず	も	求	な	る	る	と	と	と	ん	上	げ	な	が
り	い	ち	ず	一	に	な	両	め	な	心	を	う	う	と	で	上	げ	な	が
そ	静	止	度	の	女	の	目	て	な	を	煽	と	と	と	森	上	げ	な	が
	寂	まり	の	の	に	の	を	を	な	る	る	と	と	と	を	上	げ	な	が

の糸はそこに括られている。	途方にくれたようにその糸を見続けている	と、次第に胸の内に湧き上がるものがあつた	（ここで立ち止まっていても状況は変わらない	い。それになんか・・・呼ばれているような	気がする。）	利他は両手を前に伸ばしゆつくりと糸に向か	って歩き始めた。	歩を進めるとすぐに何かにぶつかる。その	度にどこの誰かも知らない人物の声が聞こえ	る。	（思うことを正直に書けばいいんじゃないの	（自業自得じゃね。今更償いとか相手も望ん	でないと思う。）	（とりあえず書いてみなよ。）	（そんなことされてもちよつと・・・重いか	なあ。）	（どう償いたいの？それを作つてどう思われ	たいかを考えようよ。）	（今売れてる曲はさ、分かりやすさがないと
---------------	---------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	--------	----------------------	----------	---------------------	----------------------	----	----------------------	----------------------	----------	----------------	----------------------	------	----------------------	-------------	----------------------

